インフォメーション

2026 年 1 月 8 日

フロードリルファスナー「セルファー」の PR 活動を開始しました。

電気自動車のバッテリーケースや、フレームなどに使用されるフロードリルファスナーを開発し、「セルファー」と命名し PR 活動を開始しました。

フロードリルファスナーは、特にヨーロッパの自動車メーカーで利用されてきた接合技術です。下穴や雌ねじのないアルミ板と鋼板を一方向から接合するなど、クルマの軽量化と剛性向上、生産性の向上に用いられてきました。最近では日本においても、電気自動車のバッテリーケースなどで使用の検討が始まった、従来のねじ・ボルトとは異なる技術です。

当社におきましてもこの開発を進め、当社が 1980 年代に開発し現在でも年間 1 億本以上を自動車メーカー等でご利用いただいているスレッドフォーミングスクリュー「エバタイト」のねじ部形状を流用し、フロードリルファスナー「セルファー」として市場投入いたします。

昨年 10 月 7 日に報告の通り、大手産業機械企業の Atlas Copco AB のグループであるアトラスコプコ株式会社と共同特許(特願 2024-069552)を取得した技術もセルファーに搭載することが可能です。

セルファーの特徴は以下の通りです。

1. 先端のドリル部分とねじ部分を持ち、ねじ部分はねじ山に溝を装備したエバタイト形状で、ねじ込み性を向上させています。
2. 表面硬度は Hv670、心部 Hv380 で、全体が硬くもろい構造ではなく、安全性が非常に高い製品です。
3. サイズや材質、表面処理など、一方的なメーカー主導の規格ではなく、お客様のご要望に応じた柔軟なデザインを日本品質でご提案できます。
4. 接合する板間の隙間を極力少なくする技術を搭載できます。(アトラスコプコ㈱との共同特許)

今後は、すでに開発のご依頼を受けている自動車関連のお客様の案件を中心に、量産に向けた活動を実施してまいります。また、フロードリルファスナーのねじ込みに必要な特殊ドライバーメーカーやそれを搭載するロボットメーカーとも協働し、新規拡販を行ってまいります。

セルファー

以上